

平成 25 ( 2013 ) 年度 教員活動報告書 ( 1/7 )

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	教授	氏名	ナトリ 琢 自
学歴	昭和63年 3月 京都大学教育学部教育心理学科 卒業 平成 2年 3月 京都大学大学院教育学研究科(修士課程)臨床教育学専攻 修了 平成 5年 3月 京都大学大学院教育学研究科(博士後期課程)臨床教育学専攻単位取得満期退学				
学位	平成 2年 3月 教育学修士 (京都大学)				
専門分野	深層臨床心理学、ユング心理学、心理療法				
専門資格	臨床心理士 (第6010号) 認定スポーツカウンセラー一級(1-007号)				
所属学会	昭和63年 4月 日本心理臨床学会 平成 5年11月 日本箱庭療法学会 平成10年10月 日本臨床心理身体運動学会 平成17年12月 日本芸術療法学会 平成24年 6月 日本ユング心理学会 平成26年 1月 国際箱庭療法学会 (International Society for Sandplay Therapy)				
受賞					
担当 授業科目	<b>学 部</b> コミュニケーションスキル演習、臨床心理学演習、臨床心理学研究法演習 I・II、臨床心理学総合演習 I・II、臨床心理学実践演習 (夢分析2)、臨床心理学実践演習 (グループアプローチ4)、深層臨床心理学、家族関係問題  <b>大学院</b> 臨床心理面接特論B、心理療法特演 II-B、臨床心理学特演 I-A・I-B・II-A・II-B、臨床心理学研究法特演 I-A・I-B・II-A・II-B				
論文指導	論文指導担当[主査] (卒論：11名、修士論文：1名) 論文審査担当[副査] (卒論：13名、修士論文：5名)				
教育実績 (FD 活動)	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義科目、演習科目で各学期に授業アンケートを実施し、教育方法の改善に活用した。</li> <li>学部講義「深層臨床心理学」「家族関係問題」では毎回A6用紙にてコメント・ミニレポートを実施し、受講生の質問や感想、授業への要望を把握するように努めた。また、携帯電話による出席確認も利用した。</li> <li>学部の必修演習では出席カードに一行コメントの欄を設け、学生の声を聴く窓口としている。</li> <li>学部「臨床心理学実践演習(夢分析2)」「同(グループアプローチ4)」では進行にあわせて「ふりかえり」の時間を設け、受講者が授業の感想や意見を言いやすい環境を整えている。</li> <li>大学院「心理学研究法特演」では、研究論文の探索と読み込みを制限時間内に行い、直後に発表する方法と課題英文図書の内容を組み合わせ、授業に能動的に取り組む姿勢を涵養しており、成果をあげている。</li> <li>この他、教授法の実をあげるべく、柔軟な対応を心がけている。</li> </ul>				
その他の 教育実践 活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25 (2013) 年6～7月にスイス・チューリヒユング研究所の夏期集中プログラムの講師をつとめた。</li> <li>学部3・4回生による学外合同研修、宿泊研修を実施。(平成25 (2013) 年8月、平成26 (2014) 年3月)</li> <li>大学院「臨床心理学研究法特演 I」では英文教科書を用いたグループ学習と発表を組み合わせ、最新の心理学研究事例を方法論的に検討した。</li> <li>臨床心理士養成指定大学院生のケース・スーパーヴィジョンを担当。</li> <li>京都文教高等学校との高大連携授業では、授業時のアンケートに記載された質問に対する回答をまとめた資料を作成し、授業後に配布した。</li> </ul>				

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (2/7)

<p>H25 年度 研究課題</p>	<p>学部・大学院（博士前期課程）共通</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユング派の心理療法について</li> <li>2. 「現代に生きる物語」</li> <li>3. 身体感覚と体感投影について</li> <li>4. 心理療法家の専門性と職業環境の国際比較</li> </ol>
<p>平成二十五（2013）年度の 研究活動の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユング派の心理療法に関しては、関連文献の研究を進める一方、チューリヒ・ユング研究所の夏期集中プログラム(スイス・チューリヒ・7月)、ジェイムズ・ヒルマン追悼記念行事(アメリカ・ニューヨーク・5月)、国際箱庭療法学会理事会(イタリア・ベネツィア・7～8月)に参加し、各国のユング派および関連諸派の動向に触れ、意見交換を行った。国際箱庭療法学会では、岡田康伸氏（京都文教大学・臨床心理学部・教授）と共同で仮面の象徴的意味と箱庭における顔的表現というテーマで発表した。（本年度臨床心理学部研究報告に一部掲載。後述：（学会報告、学会活動）（その他、エッセイ・翻訳・学術講演等））</li> <li>・ 「現代に生きる物語」に関しては、引き続き日本の古典文学・芸能を読み解くとともに、国内外の映像・文学作品を収集し、読解を進めている。本年は『鉢かづき』とグリム『千匹皮』の比較、現代日本短編小説(村上春樹、吉本ばなな、小川洋子)の深層心理的検討を試み、チューリヒ・ユング研究所のセミナーでも「おとぎ話の東西比較」「日本の短編小説」というタイトルで発表し、海外の学生と討論を深めた。</li> <li>・ 「身体感覚と体験空間」についてはより実証的な研究方法を検討するとともに、関連資料としてPMD(相互ミラー描画展開法)の作品例の収集を続けている。また、イメージを介してのグループワーク、ファンタジー・グループの地方研修会(京都・東京)にも参加し、体験空間における相互作用の理解を深めつつある。</li> <li>・ 「心理療法家の専門性と職業環境の比較」では、日本の臨床心理職の国家資格化に際して焦点となるであろう、倫理的側面について基礎的情報を収集している。</li> </ul>
<p>平成二十五（2013）年度の 主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「勾玉の象徴的意味」、単著、平成25年7月、国際箱庭療法学会会員資格申請提出論文(未発表) A4判11頁</li> <li>2. 「心理療法面接の外枠と内なる枠 ―変容のための「死の儀式」―」、単著、平成26年3月、常葉大学臨床心理事例研究第5巻第1号 (pp. 39-43)</li> </ol> <p>(学会報告、学会活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. “Persona, Symbolic Meanings of Traditional Masks, and Face-like Expressions in Sandplay”、共同、平成25年8月、共同発表者：岡田康伸、22nd Congress of International Society for Sandplay Therapy (San Servolo, Venezia)</li> <li>2. 「夢のイメージに触れる ―夢を覚え、夢に働きかける―」(ワークショップ講師)、単独、平成25年9月、日本臨床心理身体運動学会第16回大会、金城学院大学</li> <li>3. 藤崎義宣氏「ファンタジーグループと錬金術 ―イメージの取り扱いと考察―」(指定討論者)、単独、平成25年10月、日本箱庭療法学会第27回大会、大阪府立大学</li> </ol> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>学術講演：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. "Citation from 'Two Tigers' and 'Suicide and Soul'"、単独、平成25年5月、Honoring James Hillman: His Life, His Thought, His Art. (ジェイムズヒルマン追悼行事)、New York Society for Ethical Culture, New York City.</li> <li>2. “Fairy Tales in East and West.”、共同、平成25年6月、共同発表者：Weiss, U. Seminar in Intensive Study Program, C.G. Jung Institute Zurich.</li> <li>3. “Contemporary Japanese Short Stories.”、共同、平成25年7月、共同発表者：Weiss, U. Seminar in Summer Term, C. G. Jung Institute Zurich.</li> </ol>

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (3/7)

<p>平成二十五(2013)年度の主な研究成果等</p>	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)</p> <p>報告:</p> <p>1. 「ペルソナ、伝統的仮面の象徴的意味と箱庭における顔的表現」、共著、平成26年3月、臨床心理学部研究報告第6集 (pp. 183-190)</p> <p>その他</p> <p>1. 「生と死のはざままでイメージと遊んだ「達人」 —樋口和彦先生を偲ぶ」、単独、平成26年3月、日本ユング心理学会 ユング心理学研究第6巻『河合隼雄の事例を読む』 (pp. 85-89)</p> <hr/> <p>(調査活動)</p> <p>平成25年度 PMD(相互ミラー描画展開法)の作品例の収集・検討「平成22年度より」</p> <hr/> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <hr/> <p>(学内活動)</p> <p>臨床心理学部研究報告編集委員長、図書館委員会委員、「人を対象とする研究」倫理審査委員会委員、臨床心理学研究科カリキュラム委員、WEB 委員、図書委員、京都文教心理臨床学会事務局長</p>
<p>平成二十五(2013)年度の社会における活動</p>	<p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉法人京都いのちの電話研修委員「平10.4より」</li> <li>・ 日本箱庭療法学会・監事「平20.4より」</li> <li>・ 社会福祉法人桃花塾 第三者委員「平16.4より」</li> <li>・ 日本ユング心理学会・監事「平25.12より」</li> </ul> <p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成25年10月 京都文教高等学校ALP「イメージと臨床心理学」、於:同校</p> <p>(自治体や企業における研修等の講師)</p> <p>平成25年 8月 三重県教育委員会 教育相談ベーシック研修、対象:教員・教育機関相談員、「心理療法入門 —子どもとのかかわりを考える—」、於:三重県総合教育センター(三重県津市)</p> <p>平成26年 2月 京都いのちの電話研修、対象:電話相談研修生、「相互ミラー描画展開法」、於:KIND研修センター</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本臨床心理身体運動学会常任理事「平10.10より」</li> <li>・ 放送大学大学院非常勤講師(臨床心理学研究法特論)「平17.4より」</li> <li>・ 浜松大学大学院非常勤講師(イメージ表現療法特論)「平24.8より」</li> </ul>
<p>平成二十一~二十四(2008~2012)年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>1. 「ユングアン・サイコセラピーの工夫」、共著、平成21年9月、金剛出版、乾吉祐・宮田敬一編、心理療法がうまくいくための工夫 第二章 (pp. 28-38)</p> <p>2. 『心理学対決!フロイト対ユング』、共著(当該章担当)、平成22年3月、ナツメ社、編著者:山中康裕、「ドラ」(pp. 86-69)・「太陽のファロスを見た男」(pp. 70-71)・「性欲論三篇」(pp. 140-141)・「変容の象徴」(pp. 142-143)</p> <p>3. 「IT・ゲーム依存」、共著、平成23年8月、丸善出版、日本心理臨床学会編、心理臨床学事典 (pp. 168-169)</p> <p>4. 「こころに耳を傾けるために —ジェイムズ・ヒルマンのリテラリズム批判を手がかりとして—」、共著、平成24年2月、遠見書房、山中康裕編、『心理臨床の広がりと深まり』(240p, pp. 67-84)</p> <p>5. 「第四章 自己(セルフ)元型の方程式と個人のこころ——ユング『アイオーン』をめぐるフォン・フランツの言葉から」、共著(当該章担当)、平成24年12月、創元社、山中康裕監修、中島登代子・森岡正芳・前林清和編、『揺れるたましいの深層 —こころとからだの臨床学—』第三部たましいのありか (pp. 187-202), 288p</p>

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (4/7)

(論文)

1. 「解釈することとその展開 一案外体験を支える」、共著、平成21年10月、金剛出版、村瀬嘉代子・岸本寛史・下山晴彦編、臨床心理学増刊第1号 対人援助の技とこころ ー心理療法再入門ー (pp. 100-105)
2. 漱石『夢十夜』の夢体験とイメージ系列の特徴 ー主人公の姿勢、登場人物、モチーフの展開からー、単著、平成23年3月、京都文教大学 臨床心理学部研究報告第3集 (pp. 31-44)
3. 「無力感をかかえながら ー竹内さんの論文へのコメントー」、単著、平成24年2月、浜松大学臨床心理教育実践センター 浜松大学臨床心理事例研究3(1) (pp. 81-83)
4. 「姿の見えない「よい母親」と後ろめたさ ー戸田論文へのコメントー」、単著、平成25年2月、浜松大学臨床心理教育実践センター 浜松大学臨床心理事例研究第4巻1号 (pp. 102-104)

(学会報告、学会活動)

1. 「グリム・ヨランダとヨリンデル」「うぐいすの里」(セミナー発表)、共同、平成20年6・7月、共同発表者: Weiss, Ursula、日欧の昔話比較セミナー、チューリヒ・ユング研究所
2. 「女殺油地獄」(講義)、単独、平成20年7月、セミナー「日本人の心にある甘えと攻撃性」、チューリヒ・ユング研究所
3. 「Disfigured Hero: その「破」、「破局」と「破格」」(司会)、単独、平成20年9月、第27回日本心理臨床学会自主シンポジウム「ユング心理学と現代(その2)」、筑波大学
4. 金沢晃氏「学校臨床における反社会的な子どもと家族への介入モデル ー生徒指導の枠組みで導入した反社会的な子どもと家族への短期精神分析的な心理療法を通してー」(司会)、単独、平成20年9月、第27回日本心理臨床学会、筑波大学
5. 山本圭子氏「発達障害児の風景構成法の特徴」(司会)、単独、平成20年10月、第22回日本箱庭療法学会、愛知教育大学
6. 中込四郎氏「『夢』を手がかりとしたアスリートへの長期にわたる心理サポート」(指定討論者)、共同、平成20年12月、第11回日本臨床心理身体運動学会、浜松大学
7. 国際箱庭療法学会第20回大会・事務局長(大会運営)、平成21年11月、佛教大学および京都国際会館
8. シンポジウム「布置を読む力」(指定討論者)、平成21年12月、日本臨床心理身体運動学会第12回大会、九州共立大学
9. 伏見真里子氏「被暗示性の強さによる効果と留意点 ーアスペルガー障害の青年の事例ー」、単独、平成22年10月、日本箱庭療法学会第24回大会、ノートルダム清心女子大学(岡山)
10. 岸本寛史氏「過呼吸を主訴に来院した女性の夢過程」(指定討論者)、単独、平成22年12月、日本臨床心理身体運動学会第13回大会、神戸学院大学
11. 「相互ミラー描画展開法」(ワークショップ講師)、単独、平成22年12月、日本臨床心理身体運動学会第13回大会、神戸学院大学
12. 2011 Drawing Techniques for Psychotherapy Originated in Japan, seminar in Summer Term, C. G. Jung Institute Zurich, 2011.7.
13. 2011 Journeys to the Underworld, seminar in Intensive Study Program, C.G. Jung Institute Zurich 2011.7.
14. 「海外の心理療法家との出会いを通して」(指定討論者)、平成23年9月、日本的心理療法研究・公開シンポジウム「日本的心理療法 国際比較編」、京都文教大学
15. シンポジウム「捨てる! 変わる!」(指定討論者)、平成23年12月、日本臨床心理身体運動学会第14回大会、北海道教育大学函館校
16. 高橋幸治氏「不登校と母、家族、心理療法 ー息子の不登校がきっかけで来談した母親との面接ー」(指定討論者)、平成23年12月、日本臨床心理身体運動学会第14回大会、北海道教育大学函館校
17. “James Hillman, his Words and Attitude. (ジェイムズ・ヒルマン追悼シンポジウム)” (参加)、平成24年7月、アメリカ(コネチカット)

平成二十〇〜二十四(2008〜2012)年度の主な研究成果等

平成 25 ( 2013 ) 年度 教員活動報告書 ( 5/7 )

( 学会報告、学会活動 つづき )

18. ホフマン・スティーブン氏「自閉症と診断された4歳男児とのプレイセラピー」(司会)、単独、平成24年10月、日本箱庭療法学会第26回大会、米子コンベンションセンター
19. 「風景構成法を用いたミラーワークの試み」(ワークショップ講師)、単独、平成24年12月、日本臨床心理身体運動学会第15回大会、東京成徳大学八千代キャンパス
20. 岡田和史氏「境界性人格障害女性の5年間の治療経過と10数年後の転帰」(指定討論者)、単独、平成24年12月、日本臨床心理身体運動学会第15回大会、東京成徳大学八千代キャンパス

( その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 )

学術講演：

1. Natori, T. & Weiss, U. 2009 Dreams in East and West, seminar in Intensive Study Program, C.G. Jung Institute Zurich, 2009.7.6-7.9. (東洋の夢と西洋の夢を比較検討するセミナー)
2. 「Dreams and Fairy Tales in East and West, seminar in Intensive Study Program」、共同、平成22年7月、共同発表者：Weiss, Ursula、日欧の夢と昔話の比較・セミナー、チューリヒ・ユング研究所
3. “The Gate to Pure Land.”、共同、平成24年7月、共同発表者：Weiss, U、Seminar in Intensive Study Program, C.G. Jung Institute Zurich
4. “The Gate to Pure Land: The "Tannisho," a buddhist text, compared with fairy tales and analysis.”、共同、平成24年7月、共同発表者：Weiss, U、Seminar in Summer Term, C. G. Jung Institute Zurich

通訳：

1. 国際箱庭療法学会第20回大会・日本箱庭療法学会第23回大会合同シンポジウム 河合隼雄先生三回忌記念 The Inner Beauty of Hakoniwa 発表者 Dr. Alexander Esterhuyzen氏、平成21年11月、京都国際会館・アネックスホール
2. 大学院「児童青年臨床心理学特論」「現代臨床心理学実習」(講師：ウルスラ・ヴァイス)の通訳、平成23年春学期・秋学期各15回
3. 「京都文教大学心理臨床学会」研修会の事例検討においてウルスラ・ヴァイス氏の通訳、平成24年2月
4. 「第2回国際ユング心理学ワークショップ」『身体・砂・箱庭 —砂だけの箱庭と心身症の事例—』(講師：ルース・アンマン)の通訳、平成24年3月

翻訳：

1. シェパード、シェリー・蓮夢著「高野山 夢の導き 夢の山 —米国心理療法家の密教修行記—」、単訳、平成21年3月、創元社、228p

講師：

1. 「イメージを絵にして語る」(講師)、単独、平成20年8月、三重県教育委員会サプリメント講座第6回、三重県総合教育センター
2. 「相互ミラー描画展開法」(講師)、平成20年10月、単独、日本いのちの電話連盟全国研修会、京都国際会館

その他：

1. 「電話相談から学んだこと」、単著、平成20年10月、京都いのちの電話、いのちの電話相談員へのメッセージ集 (pp. 94-100)
2. 「資格制度の護りと影」、共著、平成20年11月、誠信書房、日本臨床心理士資格認定協会20周年記念事業委員会編、臨床心理士の歩みと展望 (pp. 84-87)
3. A Path of Dreams: A Commentary. In: Shepherd, S. R. (2010) A Path of Dreams. NC: Croud Mountain Press.(pp.161-184)
4. 「母性は成熟しなくてもよいと考えてみる —中島論文へのコメント—」、単著、平成23年2月、浜松大学臨床心理教育実践センター 浜松大学臨床心理事例研究2(1) (pp. 103-105)

平成 25 (2013) 年度 教員活動報告書 (6/7)

平成二十〜二十四 (2008〜2012) 年度の主な研究成果等	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)</p> <p>5. 京都文教大学主催・第1回国際ユング心理学ワークショップ「ユング派サトル・ボディワークを学ぶ」―技法の背景と実施報告― (報告)、共著、平成23年3月、京都文教大学 臨床心理学部 研究報告第3集 (pp. 159-164)</p> <p>6. 「特別企画：座談会 ウルスラ・ヴァイス先生を囲んで ―「ユング心理学」のイメージ、そして使い方― (記録・解説)、単著、平成24年3月、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第14号 (pp. 1-6)</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>平成22年度 PMD(相互ミラー描画展開法)の作品例の収集・検討「現在に至る」</p>
	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成19-22年度 科学研究費補助金(基盤研究C)「心理療法家の専門性と職業環境の国際比較」(課題番号20530648) 研究代表者</p> <p>平成20年度 アメリカ・テキサスA&amp;M大学にて心理療法家にインタビュー調査</p> <p>平成21年度 フィンランド・ヘルシンキにおいて現地調査</p> <p>平成22年度 オーストリア・ウィーン、ジグムンド・フロイト大学にて面接調査を実施</p>
平成二十〜二十四 (2008〜2012) 年度における活動	<p>(学内活動)</p> <p>平成16年 4月 自己点検・評価大学院委員会委員「平22.3まで」 入試委員会委員「平22.3まで」</p> <p>平成17年 4月 教務部長「平22.3まで」 大学教学会議委員「平22.3まで」 大学運営会議委員「平22.3まで」 予算委員会委員「平21.3まで」 自己点検・評価委員会委員「平22.3まで」 人事委員会委員「平22.3まで」</p> <p>平成20年 4月 将来構想会議委員「平21.3まで」 広報委員会委員「平22.3まで」 FD委員会委員「平24.3まで」 高大連携委員会委員長「平22.3まで」</p> <p>平成21年 4月 自己点検・評価 管理運営専門委員会委員「平22.3まで」 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平22.3まで」 自己点検・評価 学生サービス専門委員会委員「平22.3まで」</p> <p>平成22年 4月 臨床心理学部研究報告編集委員会委員「現在に至る」(委員長「平24.4より」)</p>
	<p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <p>平成10年 4月 社会福祉法人京都いのちの電話研修委員「現在に至る」</p> <p>平成16年 4月 社会福祉法人桃花塾 第三者委員「現在に至る」</p> <p>平成17年 4月 京都府臨床心理士会理事(広報)「平22.3まで」</p> <p>平成20年 4月 日本箱庭療法学会・監事「現在に至る」</p> <p>平成21年 4月 日本臨床心理士資格認定協会・専門職大学院認証評価判定委員「平25.3まで」</p> <p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成24年 6月 京都文教高等学校第1回キャリアプログラム「心理学と臨床心理学 ―こころって何?―」、於：同校</p> <p>(自治体や企業における研修等の講師)</p> <p>平成23年 1月 三重県教育委員会・地域支援研修会「子どものこころを理解と対応について」、 於：三重県津市総合教育センター</p> <p>平成23年 2月 京都いのちの電話二次研修「相互ミラー描画展開法」、於：京都市KIND研修センター</p>

## 平成 25 ( 2013 ) 年度 教員活動報告書 ( 7/7 )

平成二十～二十四 (2008～2012) 年度の社会における活動	(自治体や企業における研修等の講師 つづき)	
	平成24年 1月	三重県教育委員会第3回教育支援センター連携講座、対象：教員およびカウンセラー、「コミュニケーションが苦手な子どもとの関わり方」、於：三重県名張市・武道交流館いきいき
	平成24年 2月	京都いのちの電話・二年次研修、対象：電話相談訓練生、「相互ミラー描画展開法」、於：KIND研修センター
	平成24年 3月	京都いのちの電話・スーパーヴァイザーフォローアップ、対象：電話相談員指導者、「スーパーヴィジョンの理解と工夫」、於：KIND研修センター
	平成24年 9月	安佐医師会学校保険部会・広島心の健康研究会共催「教師の悩みと教師への支援」、於：安佐医師会館
	平成24年12月	三重県教育委員会教育相談地域支援研修、第2回地域連携講座「こどもの声に耳を傾げるために ―いじめに取り組むグループワークの工夫に学ぶ―」、於：三重県伊賀市・教育研究センター
	平成25年 2月	京都いのちの電話・二年次研修、対象：電話相談訓練生、「相互ミラー描画展開法」、於：KIND研修センター
	平成25年 3月	京都いのちの電話・スーパーヴァイザーフォローアップ、対象：電話相談員指導者、「スーパーヴィジョンでの声のかけ方を考える」、於：KIND研修センター
	(その他)	
	平成10年10月	日本臨床心理身体運動学会常任理事「現在に至る」
	平成17年 4月	放送大学大学院非常勤講師(臨床心理学研究法特論)「現在に至る」
	平成18年 4月	京都大学教育学研究科客員准教授(臨床心理学実践指導演習)「平22.3まで」
	平成24年 4月	京都大学教育学部非常勤講師(臨床心理学講読演習Ⅰ)「平24.7まで」
平成24年 8月	浜松大学大学院非常勤講師(イメージ表現療法特論)「現在に至る」	